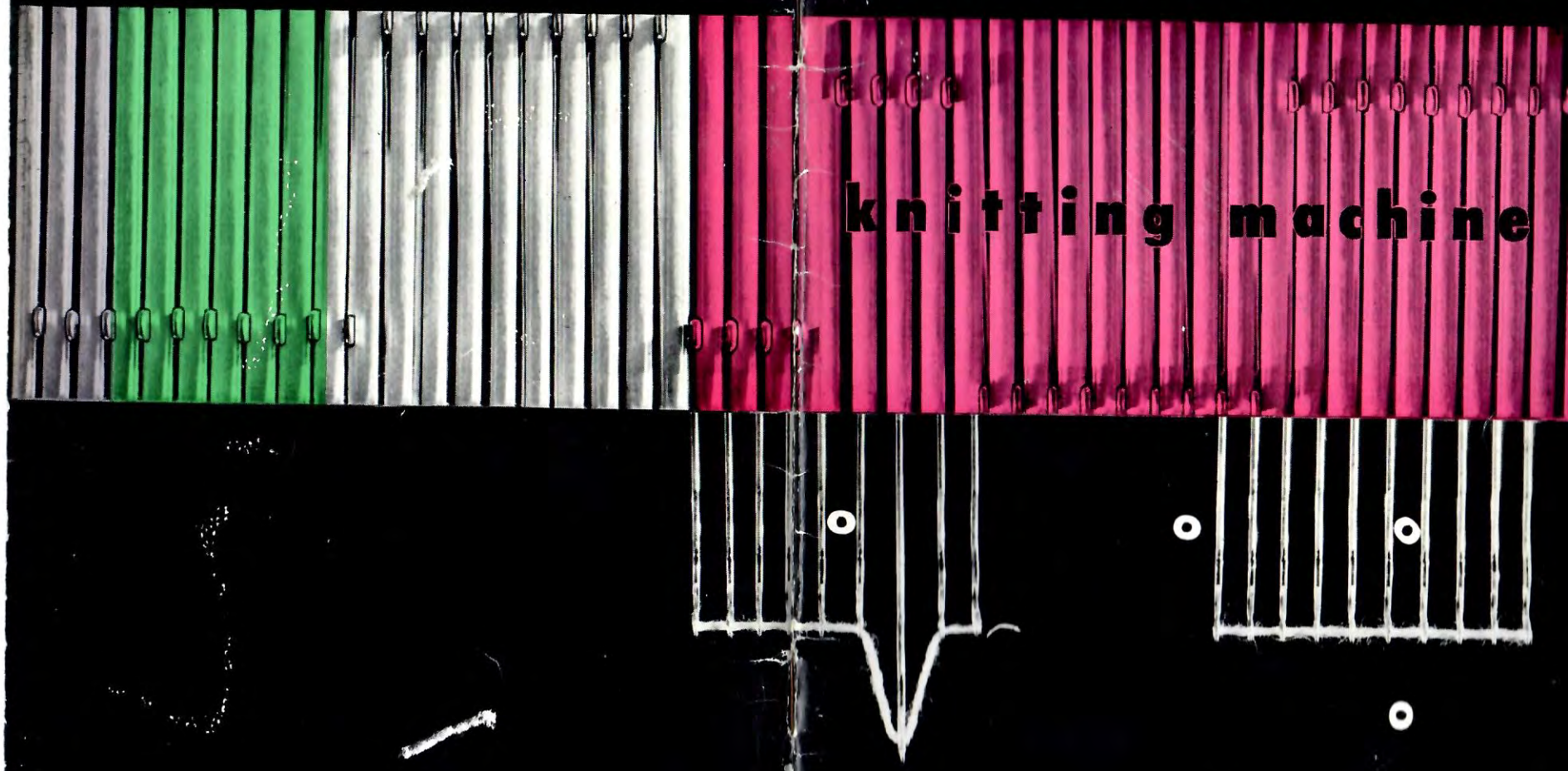
Silver Reed

シルバーリード



knitting machine

シルバー編機製造株式会社・シルバー編機販売株式会社

SK-7 Model

使用説明書

CONTENTS

名称　機械本体及附属品の名称
　　キヤリヂの名称(表　裏)

編み原理……4頁

機械の組立と取付法……6頁

編み方一歩一歩……9頁

　編出し……9頁

　メリヤス編……11頁

　練習メモ……12頁

編むに必要な基礎訓練……13頁

　うつしの用法……13頁

　落ちた目を拾う方法……14頁

　A. 目が一段落ちた場合……14頁

　B. 目が数段落ちた場合……15頁

　解きほぐし……16頁

　キヤリヂを途中から戻す場合……16頁

　ゴム編……17頁

　編途中の製品を編棒へ移す方法並びに編棒へ一旦移したものを再び機械へ戻す方法……18頁

　A. 第一の方法……18頁

　B. 第二の方法……19頁

　増目……19頁

　(一) 編地の端で増目する場合……19頁

　　(1) 一目増目……19頁

　　A. 第一の方法……19頁

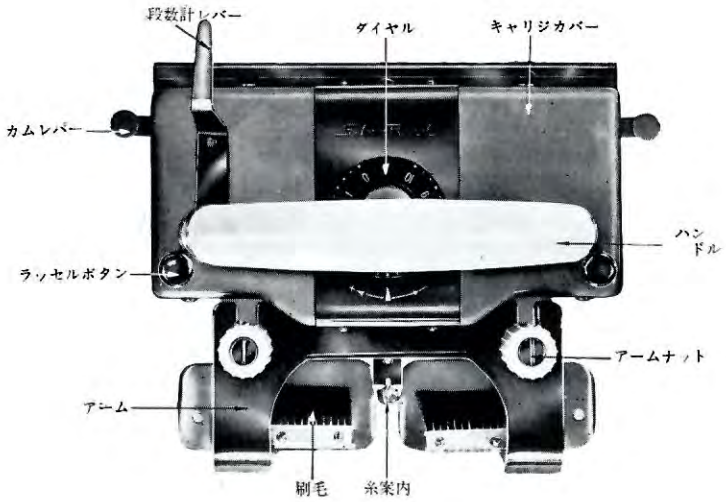
　　B. 第二の方法……20頁

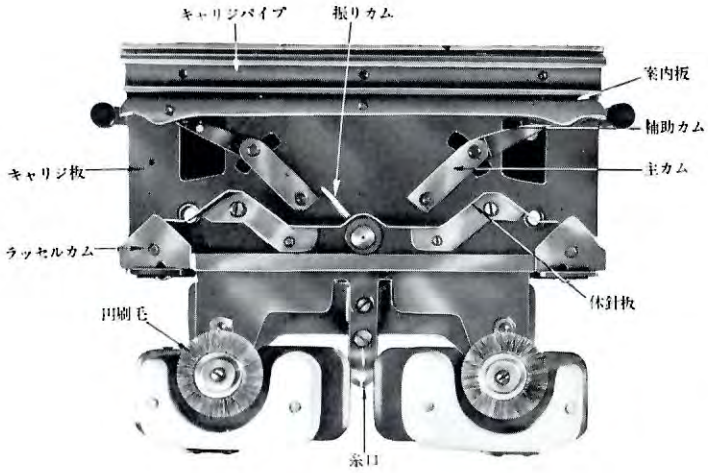
　　(2) 二目以上の増目……20頁

　(二) 中央部で増目する場合(一目)……21頁

CONTENTS

減　　目……22頁
(一) 端で減目する場合……22頁
(1) 一目減目……22頁
A. 第一の方法……22頁
B. 第二の方法……22頁
(2) 二目以上の減目……22頁
A. 第一の方法……22頁
B. 第二の方法……23頁
(二) 中央部での減目……24頁
(1) 一目減目……24頁
(2) 二目以上の減目……24頁
針の位置とカム及びラッセルボタンの関係……26頁
引　上　編……27頁
引返し編……28頁
編込み模様……29頁
二目交叉の縄編……29頁
針の交換……30頁
ゲージの採り方及計算……30頁
ゲージに基づく目数段数の計算……31頁
ゴム編にする場合のゲージ……32頁
編目記号……33頁
模様編各種……34頁
取扱い上の注意……38頁
保存と手入……39頁
標準寸法……40頁





CC

―― 本 機 の 特 長 ――

1. ピアノ線１本で簡単に編出しが出来ます。
2. 取付金具不要、卓上にていかなる高速度にても楽に編めます。
3. 特殊補助カム（ラツセルボタン）により編込み、引上げが最も簡単に自動的に編上り、しかも目はずれが皆無です。
4. 操作中カムの持上げが出き、しかもとりはずしが容易です。
5. 溝板の特殊加工は従来より数倍の耐久力が有ります。
6. 八の字型軌跡をもつ独特の特許カム装置により、レース糸からバルキーヤーン迄楽に編めます。
7. ダイヤル式30等分のゲージ目盛は調節に極めて便利です。
8. 1000段迄目盛の出る優秀な直読丸型段数計
9. 付属品一式がケース内に入る優美な金属製ケース。
10. ゴム編機の取付けが簡単です。

針

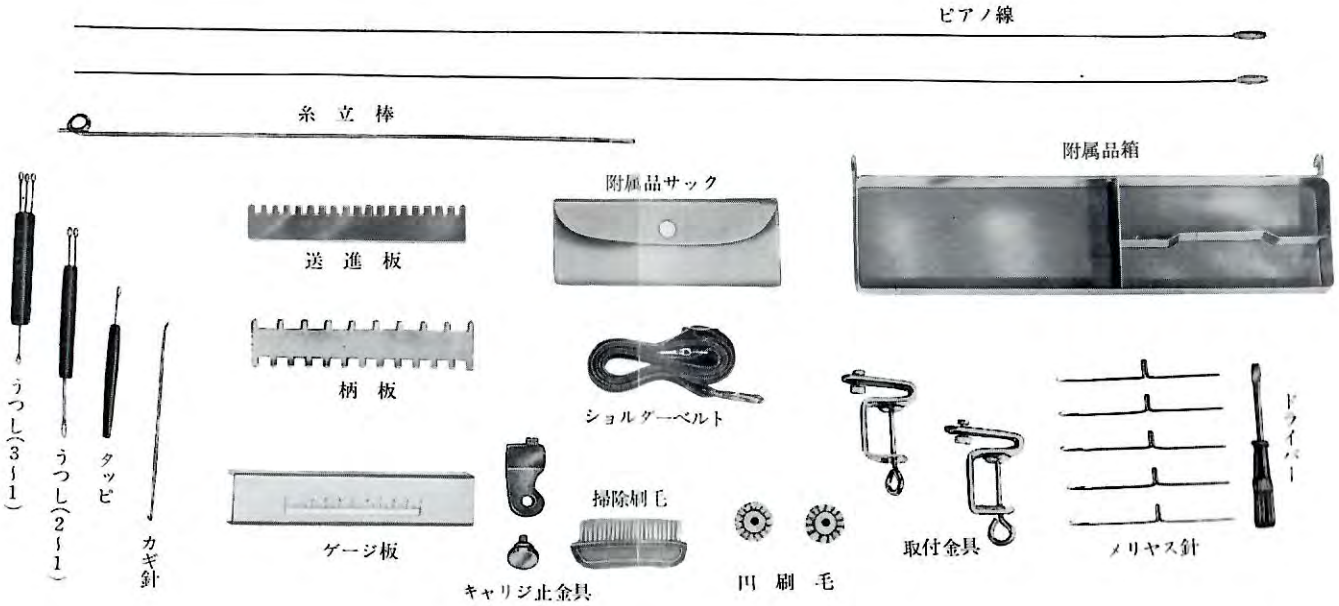
A Hobby for life

附属品一式がケース内に格納される優美な金属製ポータブルケースは、貴女を一層美しくするでしょう。

目数 200 針 ピッチ4.5$^{m}/_{m}$

ＳＫ－７型附属品名称

段数計


ピアノ線
糸立棒
附属品箱
附属品サック
送進板
柄板
ショルダーベルト
ゲージ板
掃除刷毛
キャリジ止金具
円刷毛
取付金具
メリヤス針
ドライバー
うつし(3～1)
うつし(2～1)
タッピ
カギ針

A Hobby for lif

シルバーリードSK-7型

良機が皆様の生活を合理的にし、しかもお家庭を明るくすることはいうまでもありません。

本機は皆様の要望に応えて製作された待望の完全無錘編機で従来の編出板、おもりは全く必要としません。

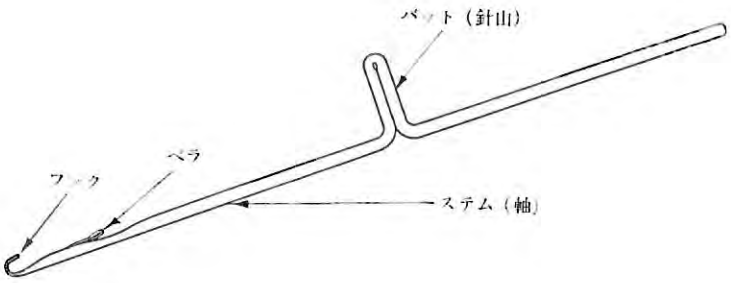
従つて、取付金具なしでも自由に卓上にて編むことが出来、極めて重宝になつております。しかも性能と耐久力に於て、絶大の自信をもつて製作されておりますから本機を十二分にマスターされ、優れた作品をお編み下さい。

以下頁を追つて使用法を詳説致しましよう。

編　み　原　理

本機の生命はメリヤス針でありまして200本の針がキヤリジの作用によつて編目を形成していきます。

従つて針の各部の名称をお覚え戴き、その次にこれらの針がどういう具合に編地を作つていくかをはつきりと見究めましよう。



一本の針が一つの編目を作る原理

1. まず前の編目が開いたベラの向側にあり糸が針のフツクの内側に送られます。

2. 針が後方へ移動するにつれ「前の編目」が自然にベラを閉じる事になります。

3. 針が更に後方へ移動するとベラは閉じられ「前の編目」はベラに添つてフツクから辷り落ちる体制です。フツクの中の糸は閉じたベラにより閉じこめられた恰好です。

4. 針がさがりきる時「前の編目」がフツクの前部へ辷り落ちます。この際シンカ針は編目が一定の間隔で整えられ、手前へ編みおとされる役割をします。

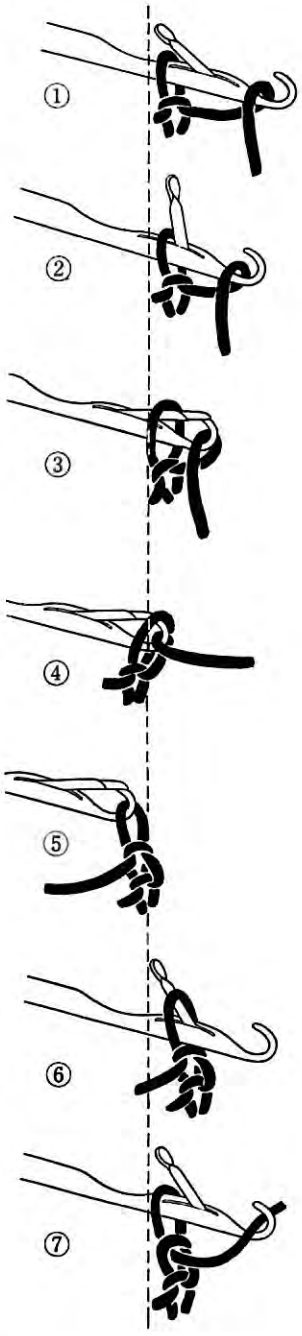
5. 新しい編目がフツクに懸つている。

6. 針が前進するにつれ「新しい編目」は自然にベラを開きベラの後方へ移動します。

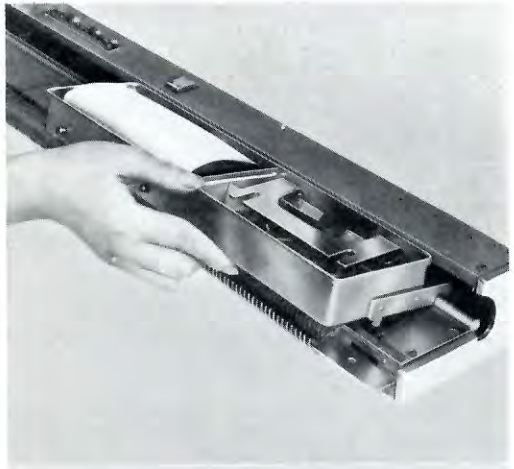
7. 編目がベラの後方にありフツクには次の段を編むための糸がかかつております。（即ち①の状態に戻る）

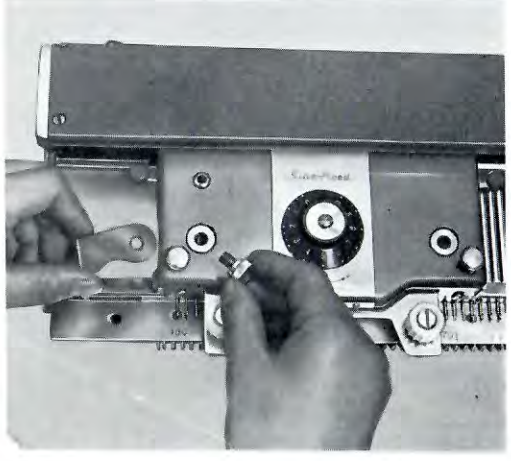
この①から⑥までが一本の針が編目を作る過程であり、200本の針がこのように作動しますから200目が一回の操作で容易に編めるわけです。

編針の作動はキヤリジのカムにより、コントロールされ、編まれる編地はメリヤス編となり裏目が見えます。



機械の組立と取付法

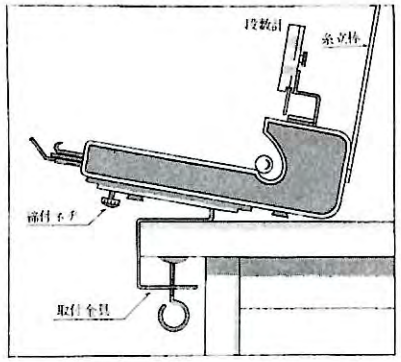




(1) 機械をテーブルの上に置きカバーの尾錠を開け、両方にあるカバーの耳を左右とも開きますと簡単に引抜くことが出来ます。
但し、カバーの内側に糸立棒とピアノ線を蔵うようになつています。

(2) 写真のように附属品ケースが右側、キヤリジが左側にあります。
附属品ケースを取出すには一寸手前を持ち上げて溝板に添つて辷らせながら右側へ出します(左上図)

(3) キヤリジは左端で溝板に固定してありますから、キヤリジ止金具を取外して下さい(左下図)
止金具は格納の際に必要ですから取りはずしたならば、附属品ケース内に保存して下さい。



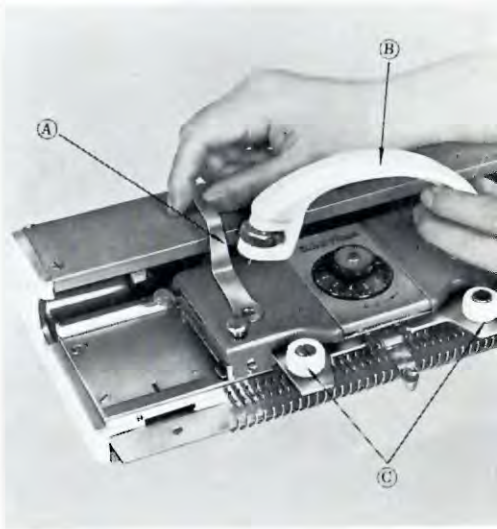
(4) 機械をテーブルに取付けるには二個の取付金具のボルト頭部を機械底部にある溝に挿し込み手前に引いて左廻しに締付けた後、取付金具でテーブルへしつかり取付けます。(左図)

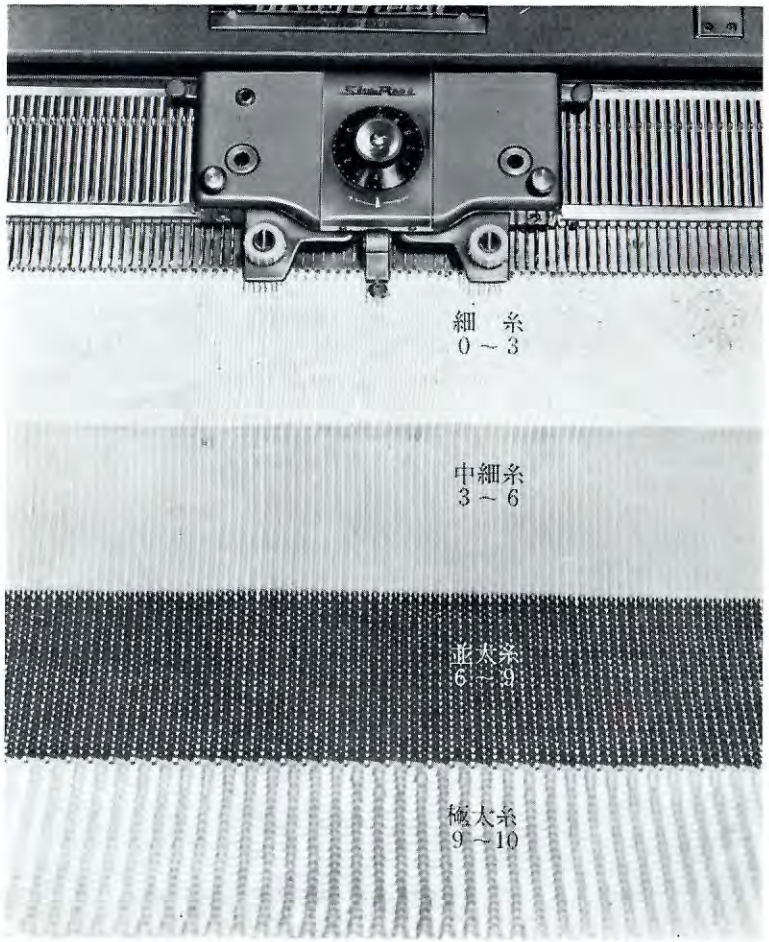
取付金具なしでも楽に編み上る……
本機は完全無錘装置でしかも、本体裏側に足ゴム(5箇)がついておりますので、取付金具なしでも卓上にて楽に編むことが出来ます。

(5) 取手の下側にある溝穴に糸立棒をさし込みます。

(6) 段数計を左右二箇所にある取付場所のいずれかに挿し込み数を0に合わせます。

(7) キヤリジを組立てるには段数計レバー(A)をキヤリジの左側へおき、ハンドル(B)をその上から締めつけます。
次にアームナツト(C)をゆるめ、アームをしつかり奥迄挿し込み締めつけます。
組立て、及び取付けはこれですんだわけですが、編始める前にダイヤルゲージの調節をしなければなりません。





上図写真にある通り、キヤリジ中央のダイヤルの数字をそれぞれの毛糸の太さに応じて合わせます。日本工業規格（JIS）標準を明示しておきます。

目　盛	使用毛糸
0 ～ 3	細　　糸
3 ～ 6	中　細　糸
6 ～ 9	並　太　糸
9. 10	極　太　糸

編目ゲージは編目がつまつているか、ゆるんでいるかを示すものです。従つてこの調節により非常に目のつまつた固い感じの靴下もふんわりとしたセーターも同じ糸から編むことが出来ます。又編目ゲージは製品のサイズにも関係してきます。例えば、3のゲージで100段編んだ場合、20cmであつたとすれば同じ糸を7のゲージで100段編めば40cmになるという訳です。初心者はこの事を念頭において小さすぎたり、大きすぎたりする製品を作らないようにして下さい。編目ゲージを自由に使いこなせば好みの感じを出すことが出来ます。

本機は30等分されたダイヤルゲージになつておりますから編む上に極めて便利であります。

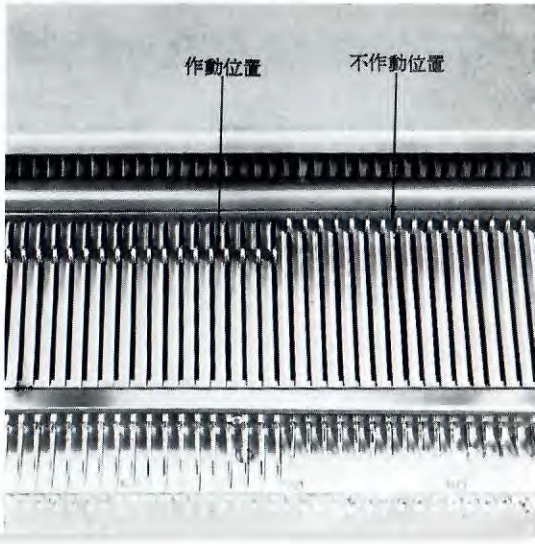
編み方一歩一歩

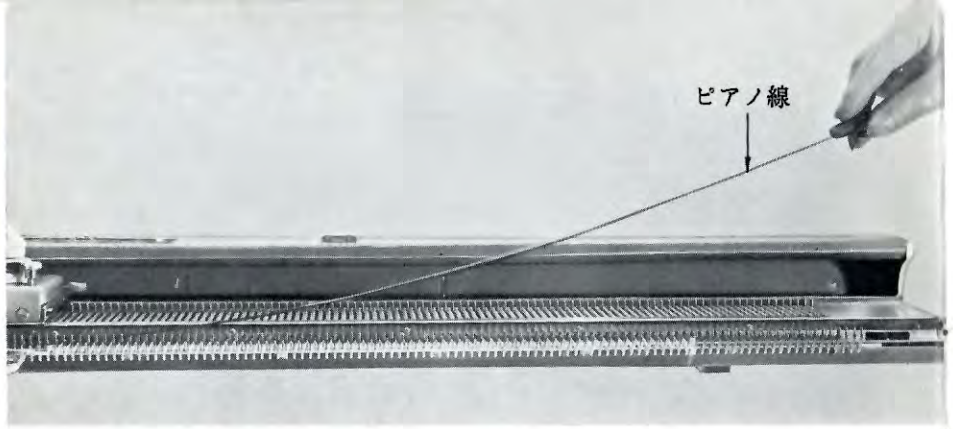
1. 毛糸のかせを解いてきれいに機械の後方に置いて下さい。
   この際、解き箱か籠などにほどいて入れても結構です。
2. キヤリジを機械のどちらか一方の端へおきます。
3. ダイヤルを廻し編目調節を行います。
4. 糸を糸立棒の輪を通してキヤリジの糸口へ導きます。
5. キヤリジのハンドル両側についているラツセルボタンを上げる事を忘れないで下さい。
6. 段数計の数字を0にして下さい。これで準備完了しました。

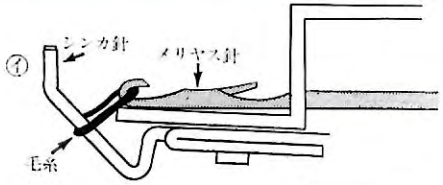
編　出　し

本機はピアノ線一本で編出せる完全無錘機で編出し法も極めて簡単です。

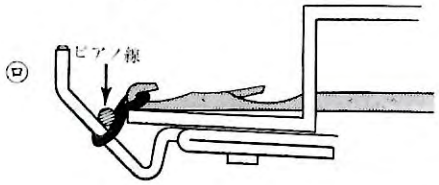
先ず編針に必要な針を引き出します。
右図のように作動位置へ送進板で出して下さい。



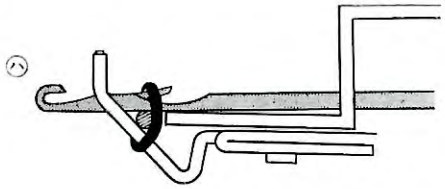




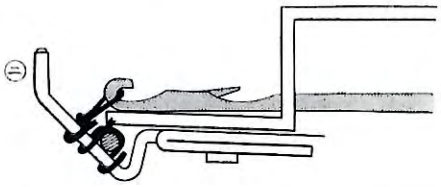
㋑ キヤリジを動かして一段編んで下さい。



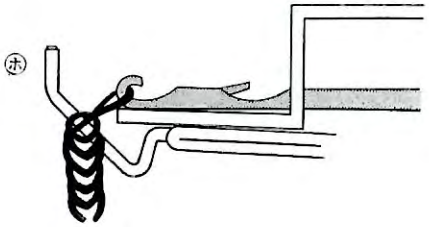
㋺ 一段編んだ毛糸の上にピアノ線を置いて下さい。
即ちシンカ針とメリヤス針の間の毛糸の上に置くわけです。



㋩ 次にメリヤス針をシンカ針の先迄、図のように引出しますと、ピアノ線は押さえられて下になります。



㋥ 以下三段〜四段編みつけます。



㋭ 編出しのつまみを静かに持つて引き抜きます。
これで編出しが終りました。以後はキヤリジを左右に動かすだけでメリヤス編が出来るわけです。この場合、本機はおもりも編出板も全く必要としません。

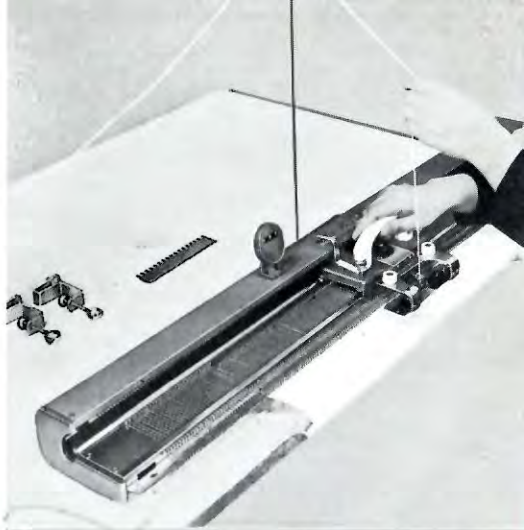
メリヤス編
（平　編）

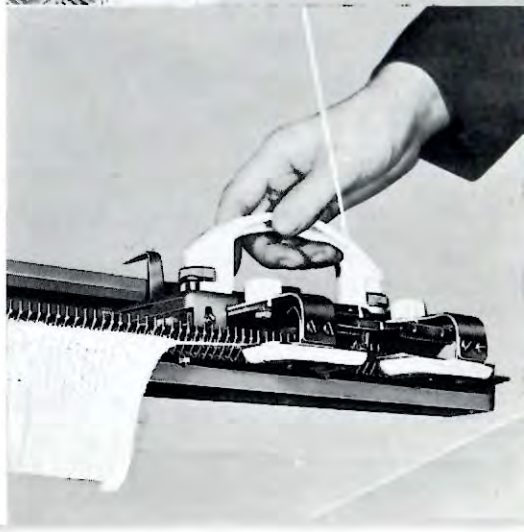
編出しの方法を覚えたならば、メリヤス編は極めて簡単です。あとは繰返し練習することです。

（上図）
それで注意しなければならないのは片方の手でキヤリジを操作し、片方を糸に添えますから、キヤリジが編地の端へかかる時、糸がたるまないように、心持ち引いておくことです。

中図は糸がたるんでいる悪い例です。
初めての方は気をつけないとこのような状態になりがちです。
しかしまた糸がたるんでいてもいけませんが、糸をあまり強く引きすぎても目が落ちたりしますので、たるまない程度にゆるく引いて下さい。

（下図）一度糸が針へかかれば引く必要はありません。上手な方は糸立棒なしでも楽々と編むことが出来ます。基礎編をしつかりなさつて下さい。





（練 習 メ モ）

1. キヤリジの操作は両端で緩く中央部で速い全体として流れる感じに行います。
2. キヤリジが編地の両端へ掛かる時、糸がたるまないように手で僅かに引き、後は糸に抵抗を与えないようにします。
3. 成るべくキヤリジを作動途中で止めないこと。
4. 作動途中でキヤリジをその儘、逆方向へ動かさないこと。
5. 糸口に糸を通さないでキヤリジを作動させないこと。（製品が機械から落ちてしまいます）
6. 編んでいる目数に対し、糸が充分にない場合、5の場合と同様、糸がなくなつた箇所から後の部分は機械から目が落ちてしまいます。
7. 編出しは3段～4段編んだらとり出し、あとは無錘のまま、自由に編みすすめます。
8. 糸が糸立棒等にからまないよう注意する。糸が強く張られ編目がつまつたりすると次の段で目が落ちたりします。

（應用編出し）

10頁で編出しを説明しましたが、編出しはその他、次のような方法でも出来ます。以下述べましよう。

（抜き糸一段をして編出す方法）

(1) 最初編むに必要な目数の間の針を送針板(1-1)で一本置きに一番先迄(Dの位置26頁参照)出します。

(2) ラツセルボタンは下げた位置にし、抜き糸で一段編みます。

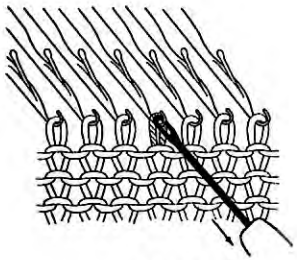
(3) 一段編んだ抜き糸の上にピアノ線を置き、一本置きに残してある針を編む位置(Bの位置26頁参照)迄出します。

(4) 次に編糸を糸口に通し、本編みにかかります。
三段編んでピアノ線を抜き、そのまま編み続けて下さい。
(注) この方法は捨編をする必要がなく、最初の目に抜き糸が通つておりますから目が拾いやすいわけです。

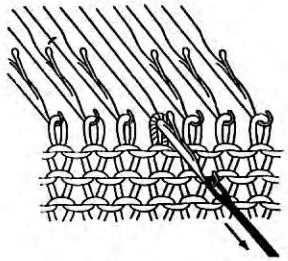
編む上に必要な基礎訓練

（一） うつしの用法

うつしは編目を一方の針から他の針へ移動させるのに使われます。



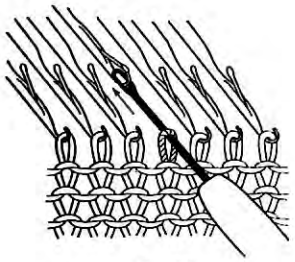
1 図



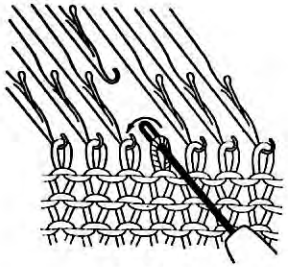
2 図

(1) うつしの先の穴を針のフツクへ掛けます。（1図）

(2) うつしで針を手前へ引出し編目をベラの後方へずらします。（2図）



3 図



4 図

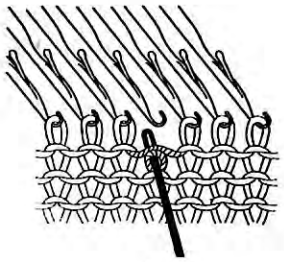
(3) 今度はその儘、針を押し戻すと編目はうつし針へ移ります。（3図）

(4) 編目をすくつた儘、うつしを左右どちらかの針へもつていき、編目を針のフツクへ掛けます。（4図）

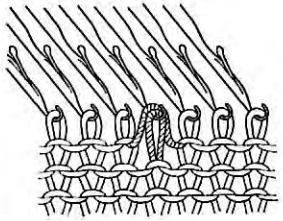
うつしは模様編、減目、増目、落し目を拾う時などに使用されます。

（二） 落ちた目を拾う方法

（A） 目が一段落ちた場合

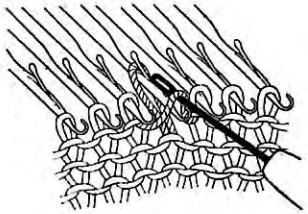


5 図

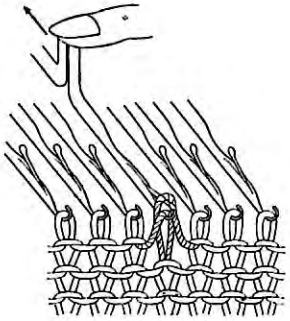


6 図

1. 一目用のうつしを一段下の編目へ通し最后の段の横糸と一緒に針のフツクへ掛けます。（5～6図）

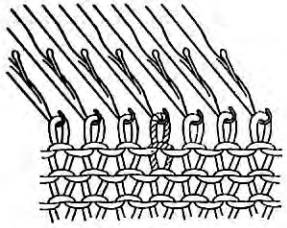


7 図



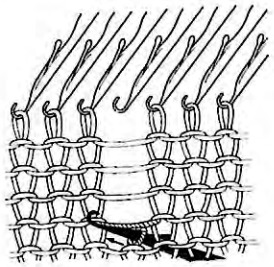
8 図

2. 前の段の編目をベラの後方へずらし最后の段の横糸をフツクの中に残す。（7図）
3. 針のバットを指先で押し針を後退させると（8図）ベラ後方の編目がフツクから辷り落ち最后の段に編目が出来ます。（9図）

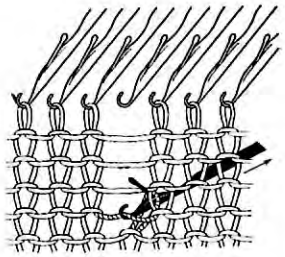


9 図

（B） 目が数段落ちた場合

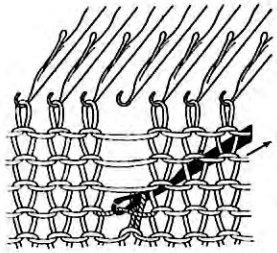


10 図

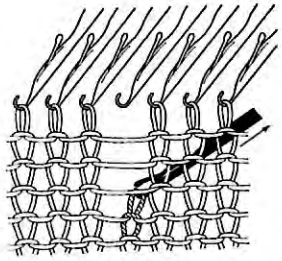


11 図

1. 編地の向側からタツピで落ちた目をすくいます。
2. タツピを手前に押しすくつた編目をベラの後方へずらしフツクに其の上の段の横糸をかけます。（10図）
3. 次にタツピを引けばベラが閉り横糸はフツク内に閉じ込められます。（11図）

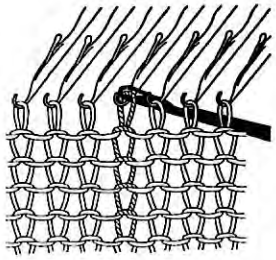


12 図



13 図

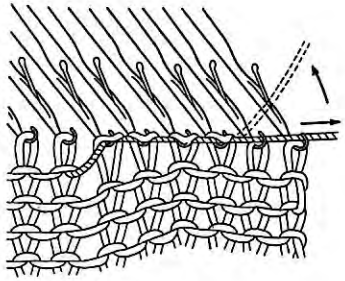
4. このフツク内の横糸を引けばベラ後方にあつた編目がずり落ち目が出来ます。（12. 13図）これを繰り返して最上段迄編みます。
5. 最後の目を針に掛けます。（14図）



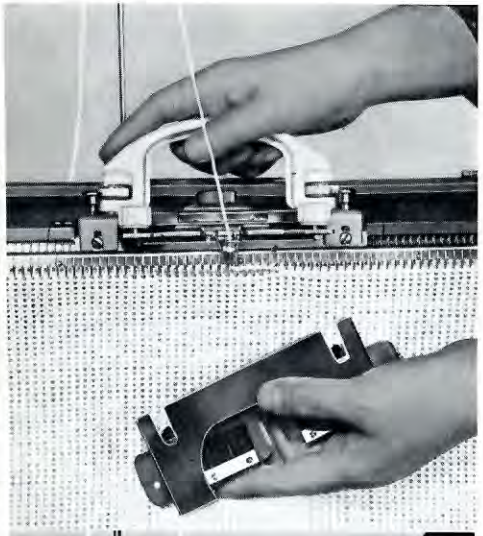
14 図

（三） 解きほぐし

何かの間違いで一旦編んだものを一段又は数段解きほぐす必要が起る場合があります。其の場合は先ず糸を水平方向に引き目をしぼつた後上方に引張つて針のフツクから糸を抜いて行きます。次の段の目が自然に針のフツクへ掛り一段解いた事になります。(15図)若し奇数段数だけほどいた場合はキヤリジを持ち上げて他の側へ移動させて下さい。



15 図



（四） キヤリジを途中から戻す場合

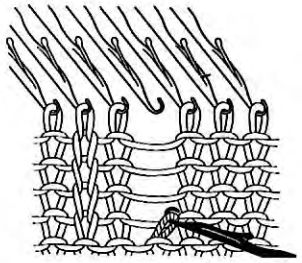
万一編んでいる途中で糸がからんでキヤリジが動かなくなつた場合は無理やりに動かしたりしないでアームをキヤリジから取りはずし(上図)

ハンドルを弛めて段数計レバーを左へずらしてからキヤリジを持ち上げて元の位置へ戻しアームを取付け、糸を通して編み進みます。このようにキヤリジを持ち上げれば編むことなしに何処へでも好きな所へもつていく事が出来ます。(下図)

糸がからんだ場合や種々の模様編を行う場合等に極めて便利です。

（五） ゴム編

袖口、ウエスト、襟、靴下の足首等には伸縮性が必要ですからゴム編を行います。模様編みとしてゴム編を入れる事も出来ます。ゴム編は表目と裏目が縦に交互に表われる編方ですから一目ずつ、二目ずつ等種々のゴム編があります。

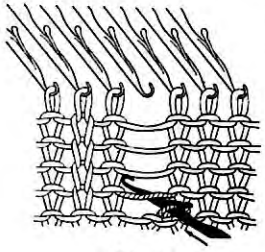


16 図

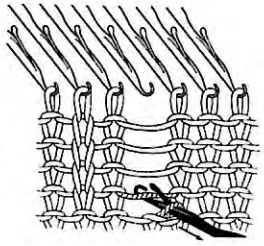
1. 目を針から落しゴム編が始まる段の少し上までほどきます。

2. 左手を編地に添えややり引張り乍らゴム編を始める段の編目へタツピを挿込み更に其処迄目をほどきます。(16図)

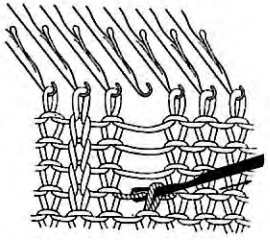
3. 15頁で目を拾い上げた要領で今度は手前からタツピを使います。図の17、18、19、20、21、22と進み最后の目を針にかけます。



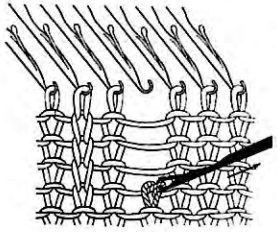
17 図



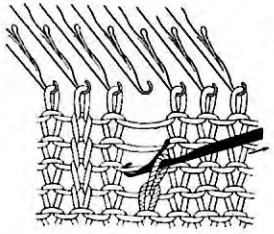
18 図



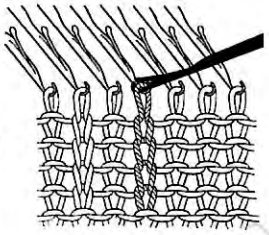
19 図



20 図



21 図

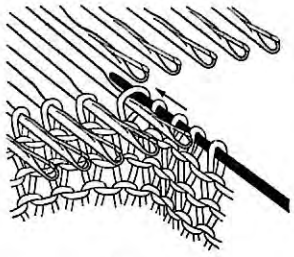


22 図

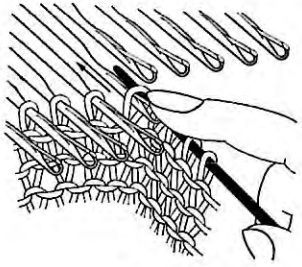
この場合ゲージ板を左図のように用いて針を固定させるとゴム編が容易に出来、目の落ちる心配がありません。

（六） 編途中の製品を編棒へ移す方法並びに編棒へ一旦移した物を再び機械へ戻す方法

或る製品を編み終える前に機械から取外したい場合もありましようし、機械編の途中から特別に手編へ移したい場合もある事と思いますので製品を機械から取外し又元へ戻す方法二つを示しましよう。



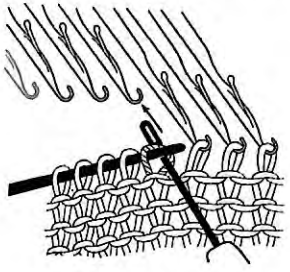
23 図



24 図

☆ 第一の方法

1. 左手を編地に添え右手で送進板を使つて針を前方へ出し編目がベラの後方へずれる様にします。
2. 編棒を手前から向うへ向けて端の編目へ通します。(23図)
3. 人差指で針の頭部を押し戻し編目を針から編棒へ移します。(24図)此の方法を繰り返して下さい。



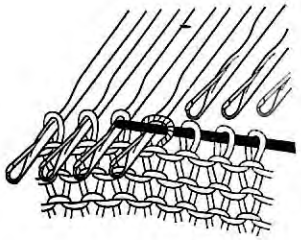
25 図

次に編棒より機械へ戻すには

1. 右から始めます。うつしを手前から編目へ通します。(25図)
2. 編目を編棒から抜き取り針へ掛けます。目を針へ戻して行くにつれて機械に掛つた部分が浮き上り目が落ちる事がありますからかかつた針は後の方へ押して下さい。この方法は容易であり初心者に向きますが次の第二の方法程速くありません

☆ 第二の方法

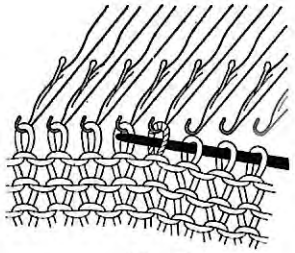
1. 編地前方に左手を添え送進板で針を前へ出すと編目はベラの後方へずれます。
2. 編棒を向う側から手前へ向けて編目に通し(26図)
3. 人差指で針の頭を押し戻し編目を編棒へ取ります。此の方法を繰り返して下さい。



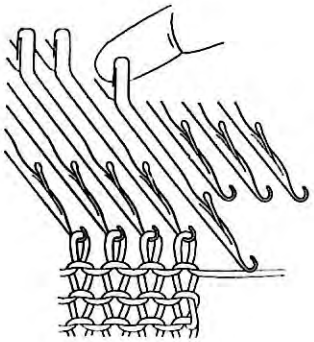
26 図

編棒から機械へ戻すには

1. 目数と同数の針を前へ出して下さい。
2. 前へ出した針のベラはすべて開いておきます。
3. 左から始め編棒から針へ直接目を移します。かかつた針は順次後へ押して下さい。(27図)



27 図



28 図

（七） 増　目

A 編地の端で増目する場合

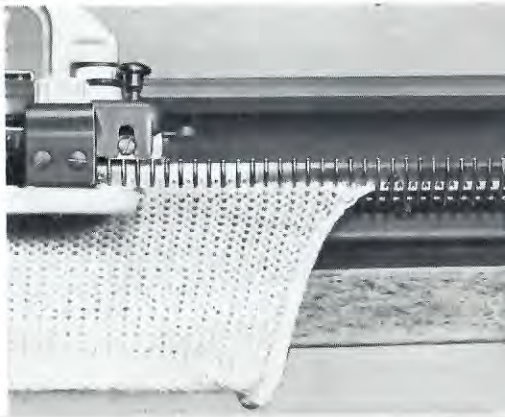
(1) 一目増目

☆ 第一の方法

a. 糸端が出ている側で端目の針の隣へ空針を出し(28図)

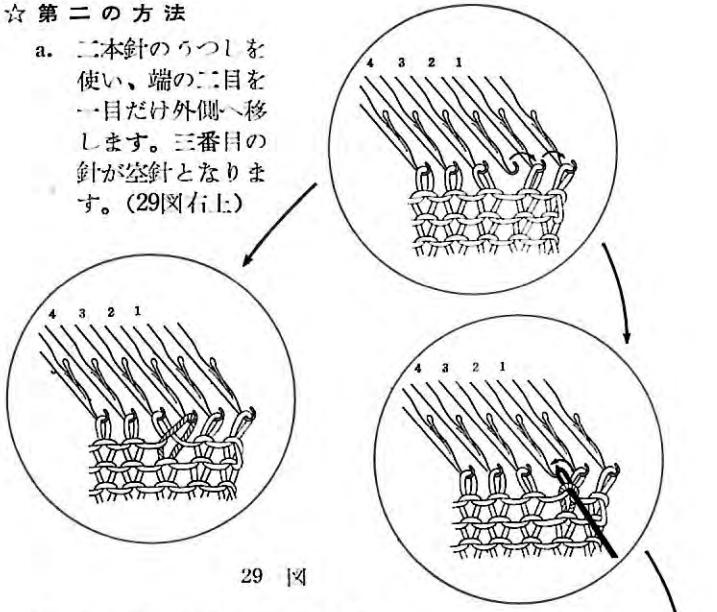
b. 次を編めば一目増した事になります。

此の方法は簡単に出来ますし、別袖の場合袖付け線が外へ出ませんから袖山を編むのに適します。



☆ 第二の方法

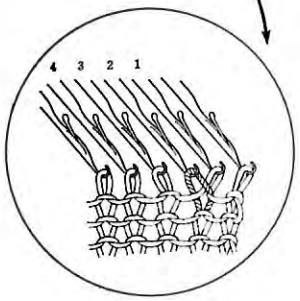
a. 二本針のうつしを使い、端の二目を一目だけ外側へ移します。三番目の針が空針となります。(29図右上)



29 図

b. 此の空針の隣りの目の裏目をすくい空針へかけます。(右中図)空針の左右何れの裏目をすくつても良い訳ですが(右下、左図)端から二番目をすくつた場合は端が幾分つまり、反対に内側からすくえば端目がつまりません。

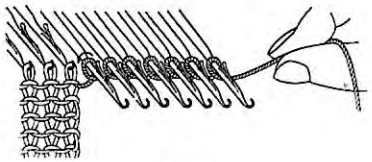
此の方法が最も多く用いられます。端の目が綺麗に揃いますからはぐことが楽に出来ます。



(2) **二目以上の増目**

a. 糸端が出ている側（キヤリジがある側）で増目するだけ空針を引出します。

b. 引出した針のベラ後方に糸を軽く巻きつけますが右側で増目する場合は反時計方向に、左側の場合は時計方向に巻いて下さい。(30図)

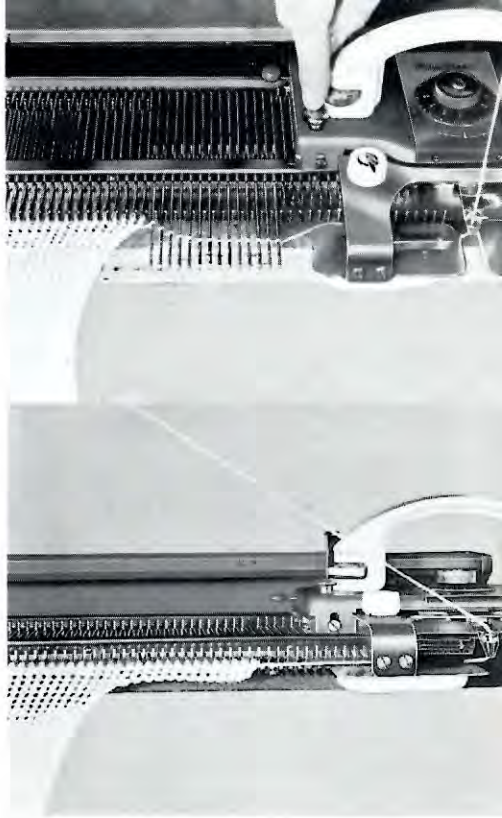


30 図

c. 写真のように巻目が済んだならばラツセルボタンを下げます。(上図)

d. 一回キヤリジを操作します。増目した部分の針は前へ出し手ら三段程操作します(下図)

本機は無錘の為、たくさんの増目も同時にきれいに編上ります。



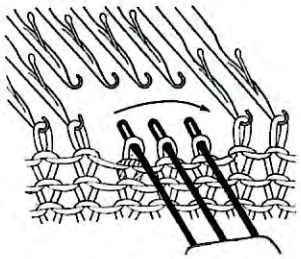
B、中央部で増目する場合(一目)

(1) どの部分(針)で増目するかを決めます。

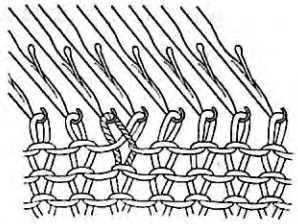
(2) 3～1のうつしを使用し、その部分(針)から左右何れかの編目を全部一目だけ端の方へずらします。(31図)

(3) 空針になつた針の隣りから裏目をすくい、空針へかければ中央部で一目増したことになります。(32図)

(4) 全体で増し目するときは一度別な針に目をとりはずし、何目毎に増し目するかをあらかじめ計算し、その数だけかけては次の針をあけ、その次からまたかけ、全部すんでから一目増のように隣り目の裏目をすくつてかけます。



31 図



32 図

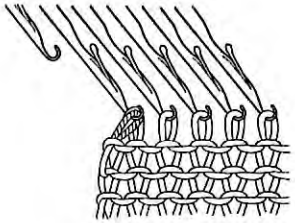
（八） 減　目

A. 端で減目する場合

（1） 一目減目

☆ 第一の方法

最も簡単な方法はうつしを使つて端目を次の針へ移すやり方です(33図)曲線の部分を減目するのに適します。



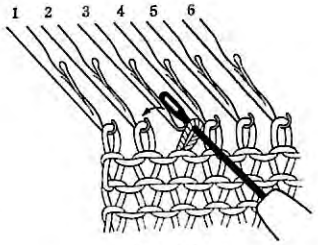
33 図

☆ 第二の方法

a. 一本針のうつしを使つて端から三番目の編目を二番の針へ移し(34図)

b. 今度は二本針のうつしで端の針の一目と次の針に掛つている二目とを一緒に中央部へ向つて一目ずらします(35図)

c. 空になつた端の針は奥へ押し戻しておきます。
此の方法は斜線を作る時に用いられます。



34 図

（2） 二目以上の減目

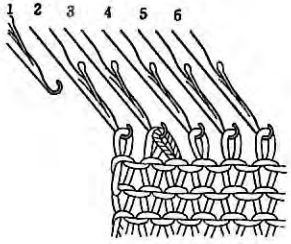
☆ 第一の方法(伏目)

キヤリジのある側（端糸の出ている方）で行います。

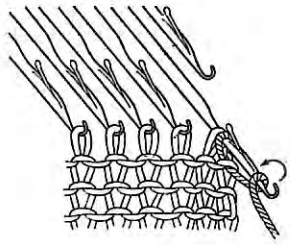
a. 端の目を二番目の針へ移します。(36図)

b. うつしを其の針へ掛けて針を引出し掛つている二目をベラの後方へずらします。

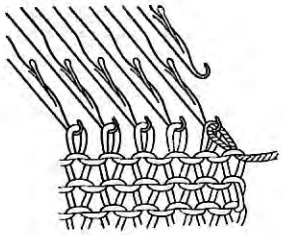
c. 糸を下から中心へ向けて巻きつける様にフツクの内側へ通します。(37図)



35 図



37 図

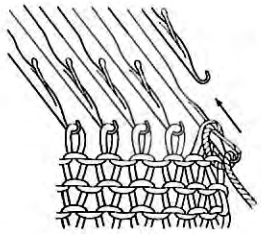


36 図

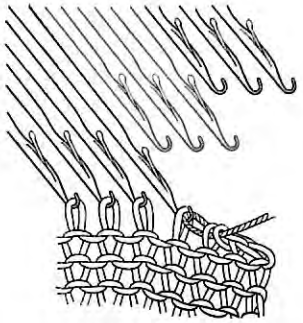
d. 針のバットを指先きで押し戻せば、ベラ後方の二目はずり落ちて一目出来ます。(38図)

e. 減らしたい目数の最后から二番目迄此の方法を繰り返し最后の一目は次の針へ移して下されば結構です。(39図)（三目減したい場合は二目を a. b. c. d. の方法で減らし三番目の目を四番目の針へ移して頂ければよろしい訳です）

f. 減目して空になつた針は必ず奥迄押し戻しておいて下さい。
此の方法で何目でも減らす事が出来ます。



38 図



39 図

☆ 第二の方法(タツピを使う)

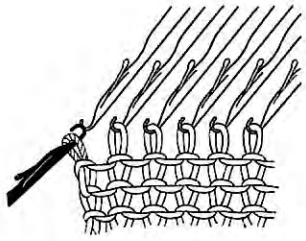
端糸の出ていない側（キヤリジが無い方）で行います。

a. 端の目をタツピへ取ります。(40図)

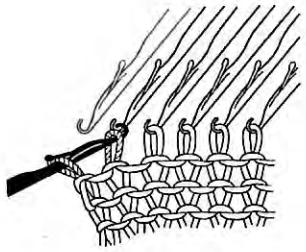
b. 其の儘二番目の編目もタツピへ取ります。(41図)

c. 次に最初に取つた編目（一番端の目）をタツピのベラ後方へずらし(42図)

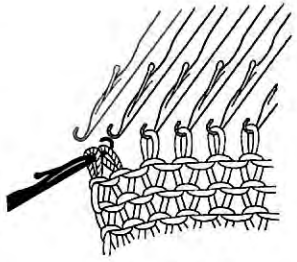
d. タツピを一寸引けばベラが閉ります。



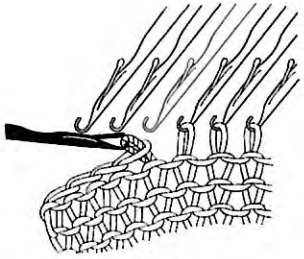
40 図



42 図



41 図



43 図

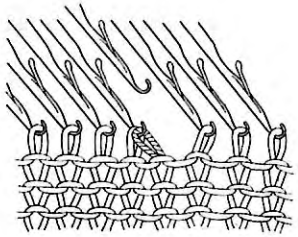
e. 今度はタッピのハンドルを持ち上げ傾けてやると第一の目はずり落ち一目編めます(43図)

f. 第三番目の編目をタッピに取りaからe迄を繰り返します。此の様にして減目して行きます。

g. 最后の目はタッピから次の針へ移すだけです。

h. 空になつた針を奥迄押し戻す事を忘れない様にして下さい。

これは第一の方法よりやりずらいかも知れますんが馴れると第一の方法より速くやれます。



44 図

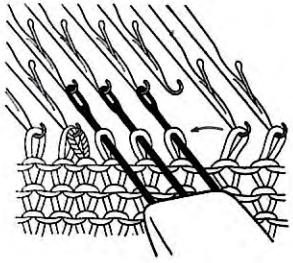
(B) 中央部での減目

(1) 一目減目

a. 一本針のうつしを用いて減らしたい目を中央に近い側の隣の針へ移します(44図)

b. 3目のうつしを用いて今空針になつた所から端迄の編目全部を空針の方へ一目ずつずらします。(45図)

c. 空になつた端の針を奥迄押し戻します。

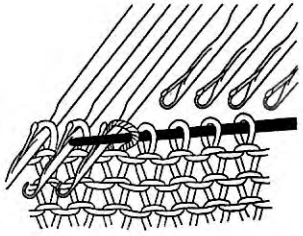


45 図

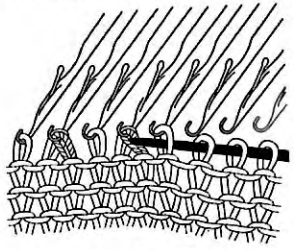
(2) 二目以上の減目

a. 製品を編棒へ取ります。(46図)

b. あらかじめ減目する数を決めます。編棒から機械の針へ目を戻し乍ら必要な回数だけ二目一緒に掛けて行けば二目一緒に掛けた回数だけ編地の全体に亘つて減目した事になります。(47図)



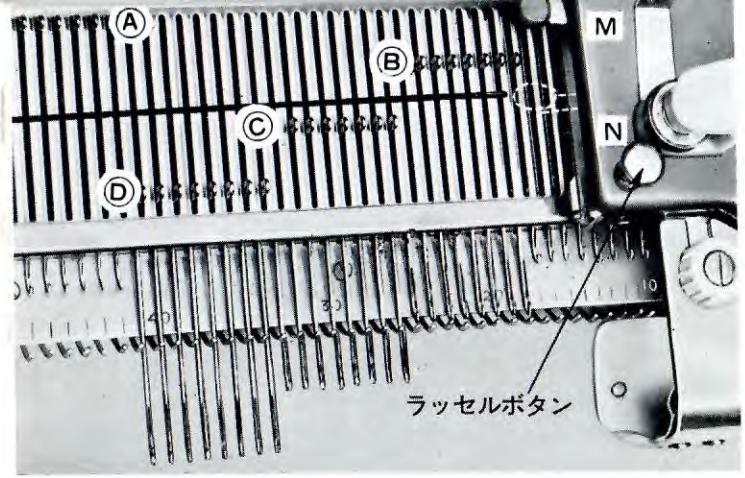
46 図



47 図

極細からバルキーヤーン迄

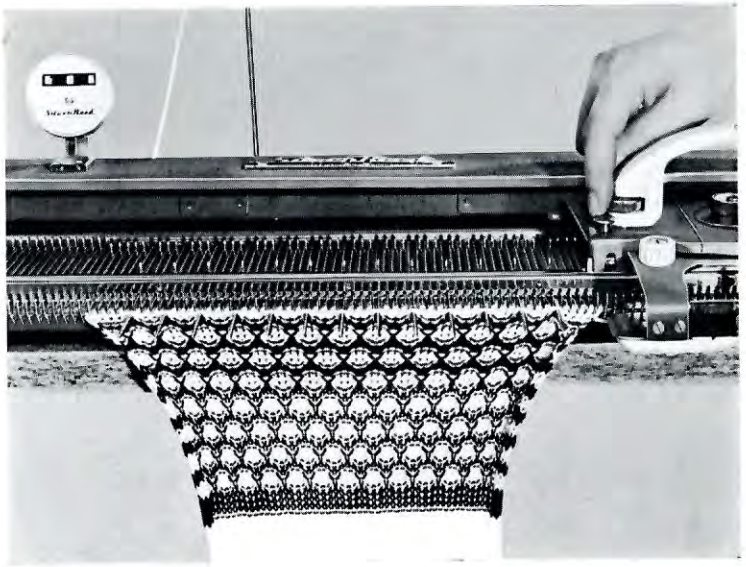
楽々編める完全無錘機



（九） 針の位置とカム及びラツセルボタンの関係

本機の編針二百本は四つの異つた位置に置かれた場合に夫夫異つた働きをします。キヤリジのカムレバーを一寸上げると（M）から（N）の位置に動かす事が出来ます。針の位置とカムの位置及びラツセルボタンの組合せにより色々な編み方が容易に出来ます。此処で針の位置とは針のバツト(針山)の位置の事です。下の表はこれらの位置と針の働らきを示します。

針の位置	A	B		C	D		
カムレバーの位置		M位置	N位置				N位置
ラツセルボタンの位置	上げる	上げる	上げる	上げる	上げる	下げる	下げる
針の機能	編めない	編める	編めない	常に編める	編める	編める	編める
応用	運搬携行この位置では針が固くなるまで止めるならいれす引出さないと限り針がすこはありません。	普通、編んでいる時はこの位置です			引上げ編	引返し編	編込模様



引　上　編

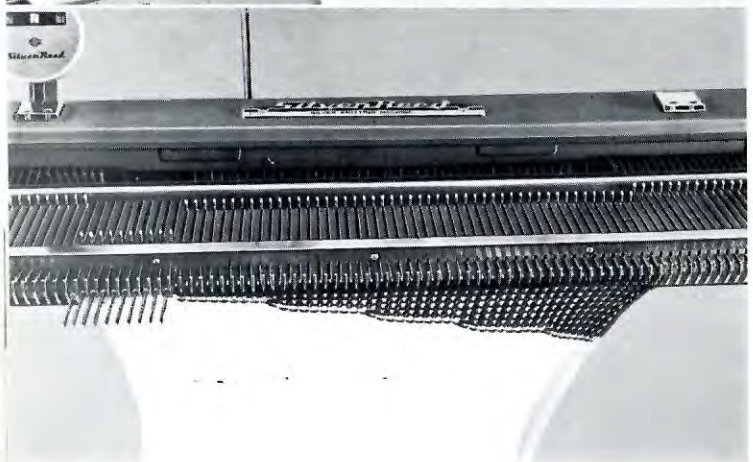
(1) 引上げる目の針を溝板の前方まで一杯に突き出して編むと前方に出た針は引上ります。（ラツセルボタンは上げたまゝ）

(2) 次にラツセルボタンを下げて編めば、前方に一杯に突き出した針はラツセルボタンの機能により編めて、引上げ模様が出来ます。

(3) (1)の操作をそのまま繰り返し好みの段数だけ編みますと二段以上の引上げになります。

目の間隔と段数、配色により面白い模様編が簡単に出来ます。

（写真A）



（写真B）

引返し編

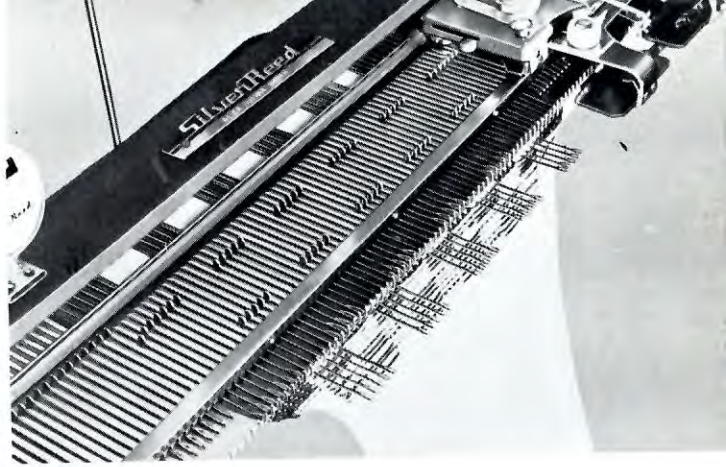
編まない目の針を送進板で、溝板の前方まで一杯に突き出し、一段編みつけます。ラツセルボタンは上げておきます。

次に編み残された部分の最初の針の下から糸をくぐらせてキヤリジを操作すれば、二段目が編めたことになります。（写真A）

次に引返す目数の針をCの位置におき、編み進みますと三段目が編めます。（針の位置26頁参照）

二段目の状態でキヤリジを操作すれば、四段目が編めて引返しが二回出来たことになります。

この操作を繰返しますと、好みの引返しが出来ます（写真B）この場合、隣りへ糸をかけないと穴があきますから注意して下さい。

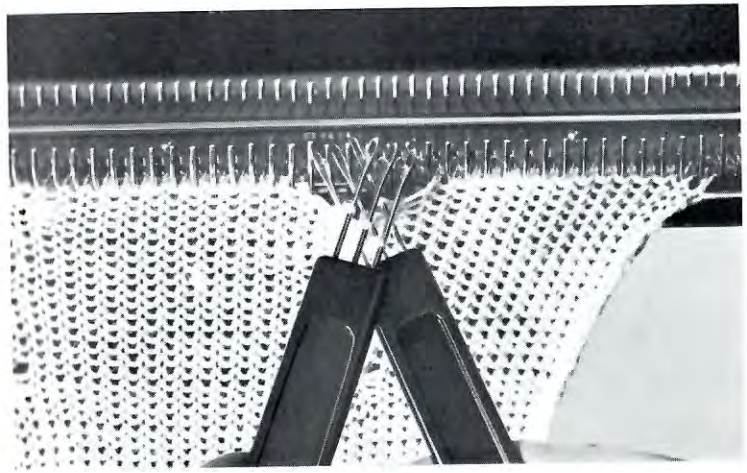


編込み模様

配色糸を使つて編込み模様をする場合には、カハレバーを手前におき（N位置にする26頁参照）ラツセルボタンを下げ、地糸のかかつた編糸の中から、配色をしようと思う編針だけDの位置に針を引き出し配色の糸で一段編みつけます。次に今編まなかつた編針を同じように引出して地糸で編みます。

数種の配色をしたい場合はこの操作を繰返して下さい。

この場合、目の落ちる心配が絶対にありません。



三目交叉の縄編

三目のうつし針を二本用いて三目一度にはずし、そのまゝ休ませておき、次にあき針の右の目を三目一度にとり、あき針にそのまゝかけます。次にさきに休ませておいた目を空いている針にかけますと縄編が出来たことになります。

並太の四目交叉も楽に出来ます。

針の取替

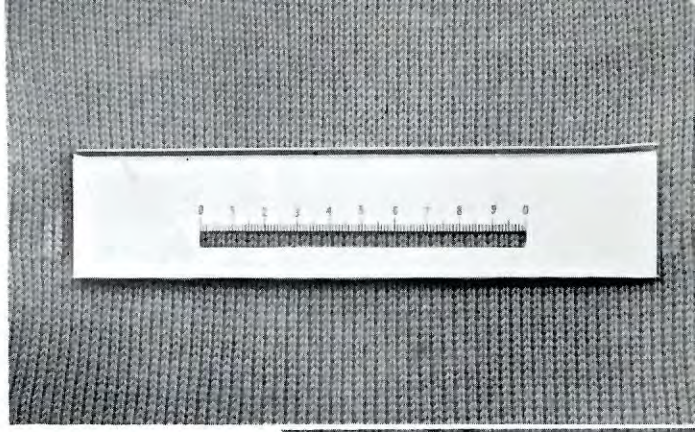
針が折損した時は図のようにドライバーで溝板両端の溝板止ネジを2個はずしますと、溝板が簡単にとりはずせます。

次に溝板を裏返し、針止棒を引き抜きますと、左下図のように破損針の取替えが出来ます。

それがすみましたら、針が抜けないように針止棒を通し、今の逆に取付けて下さい。

ゲージの採り方及び計算

まず15cm平方位の編見本を作つて物差を当てて5cm角の横の目及び縦の段数を計算し、それを10cm角に換算してゲージを定めます。目の大きさを定めるには、糸の太さによつて指示する目盛が異なります。



横の目（目数）

(10cm平方)

一般には

極細	44目	65段
中細	32目	42段
並太	26目	35段

製品を編む前に試編をして編目の大きさを定めます。初心者は8頁に出ている「標準ゲージ」にしたがつてキヤリジのダイヤルゲージ指針をそのゲージ番号に合わせ縦横15cm位の編地を作り機械から取外して平に置き、成るべく中心部で10cmに対する目数と段数を数えて下さい。（図参照）これで10cmに対する正確な目数と段数を得た訳ですから次に体にぴつたり合う製品を作るには此の目数段数の計算をどうするかと云う事に移りましよう。

縦の目（段数）

ゲージに基づく目数、段数の計算

1. 体の必要部分を採寸する。
2. センチ当りの目数、段数と夫々の寸法とを掛け合わせると夫々の部分に必要な目数、段数が出ます。
   採寸方法とゲージから必要な目数と段数を得る方法を例で示しましよう。

若しゲージが10cm当り32目と44段で採寸寸法が、ウエストの½=35cm、バストの½=40cm、腰から腕ぐり迄の丈が22.5cmであれば

1cm当り $\begin{cases} 3.2目 \\ 4.4段 \end{cases}$ として

ウエスト編始め目数

3.2目 × 35 = 112目

バストで必要な目数

3.2目 × 40 = 128目

ウエストから腕ぐり迄の段数

4.4段 × 22.5 = 99段

腰から腕ぐりの間の増目

128目 − 112目 = 16目

片側の増目は

16目 ÷ 2=8目

8目を等間隔で増目するには増目が終つた後袖ぐりを始める迄増減なく編む部分を加え全段数を9で割ります。

99段 ÷ (8+1) = 11段

九つに分けた各の部分で一目ずゝ増目すれば良い訳ですから十一段目毎に両方で一目ずゝ増目を八回行い後十一段迄真直ぐ編みます。これは計算の一例に過ぎませんがすべての計算はこの様にゲージの目数と段数を基礎として行われます。

ゴム編にする場合のゲージ

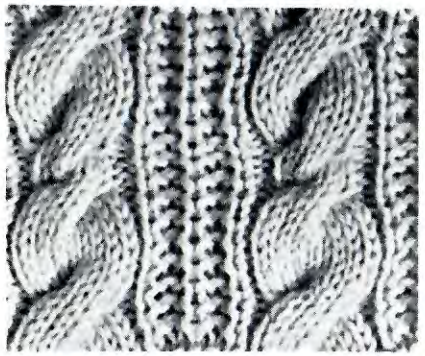
ゴム編になる部分のゲージはメリヤス編のゲージよりつまり気味にします。ゆるいゲージであんでいる場合は大体一目盛、固いゲージの場合は半目盛つめて下さい。例えばセーターを七のゲージで編んでいてウエストに10cmのゴム編をつけたい場合を考えてみましよう。七のゲージで編んだ場合10cm当り32段あるとすれば其の儘のゲージで32段編めばゴム編部分10cmに足りるのですがゲージを六につめますから4段だけ余分に（32段 + 4段 = 36段）編む事になります。

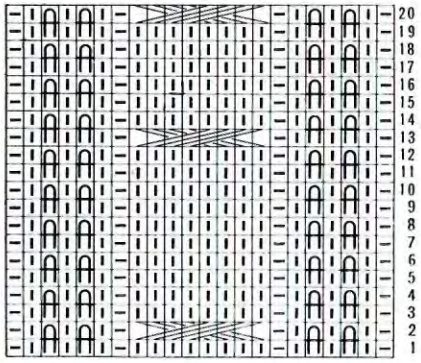
若し四のゲージで編んでいる場合はゴム編にしたい部分だけ3.5にして編みます。

編　目　記　号

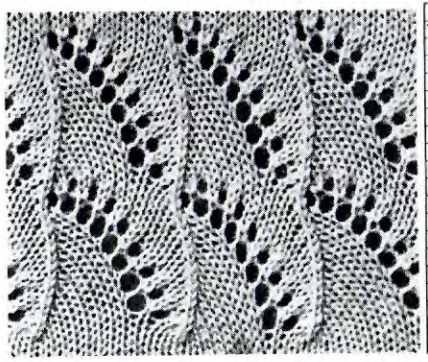
記号	名称	意義
┃	表　目	メリヤス編の表目
━	裏　目	メリヤス編の裏目
○	かけ目	寄せ目　またはかけ目によりできた穴の表示
⅄	右上 2目一度	右のループが左のループの上に重なり一緒に編成された編目
⅄	左上 2目一度	左のループが右のループの上に重なり一緒に編成された編目
／	右寄せ目	増し目　または減らし目により順次右に傾いた編目
＼	左寄せ目	増し目　または減らし目により順次左に傾いた編目
⅄	右上 3目一度	右のループが一番上になり左，中のループが下に重なつて一緒に編成された編目
⅄	左上 3目一度	左のループが一番上になり中，右のループが下に重なつて一緒に編成された編目
⅄	中上 3目一度	真中のループが一番上になり左右のループが下に重なつて一緒に編成された編目
⅄	右増目	記号該当の箇所の左下のループが引上つている編目
⅄	左増目	記号該当の箇所の右下のループが引上つている編目
╳	左上交サ	左のループが上になつて交サしている編目
╳	右上交サ	右のループが上になつて交サしている編目
∩	ひき上げ目	表示された各段のループを重ねて最頂部のループと一緒に編成された編目
∀	浮　目	表示された最下段のループのみが引上つて編糸がそのループの表をわたつている編目
⅄	ねじり目	ねじつて編成された編目
⅄	ねじりひき上げ目	表示された最下段のループがねじられて引上げられた編目

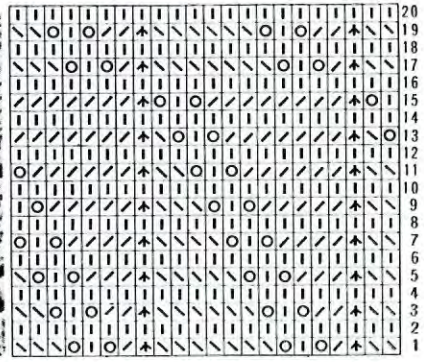
四目交叉の縄編



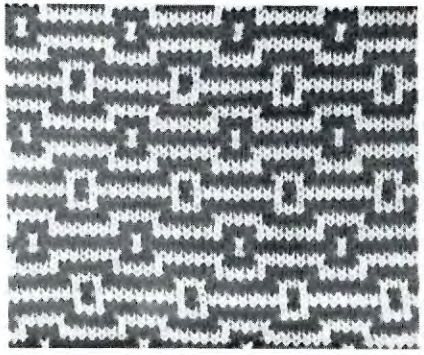


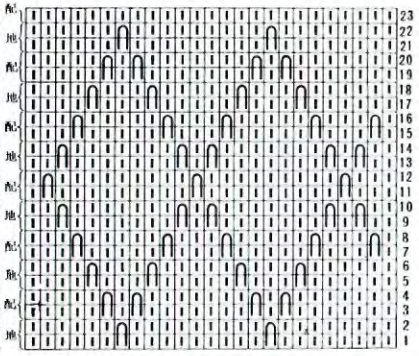
寄せ模様編



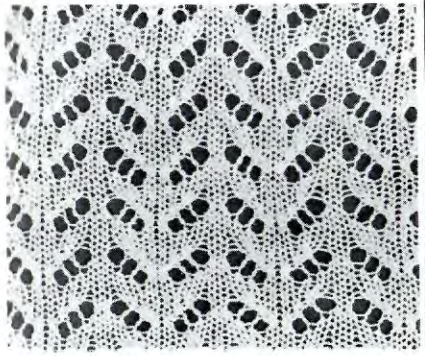


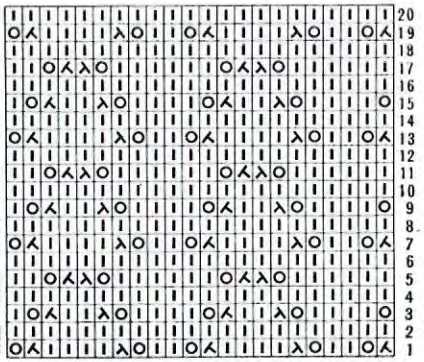
引上げ模様編



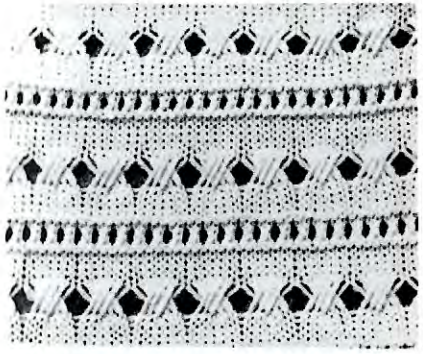


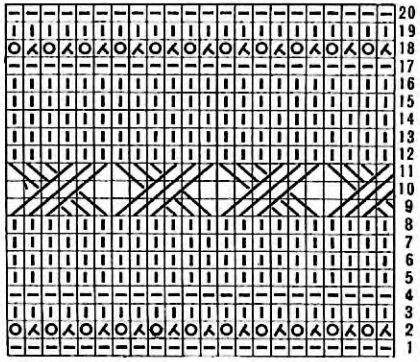
レース編



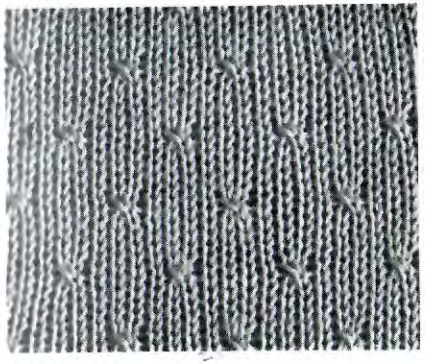


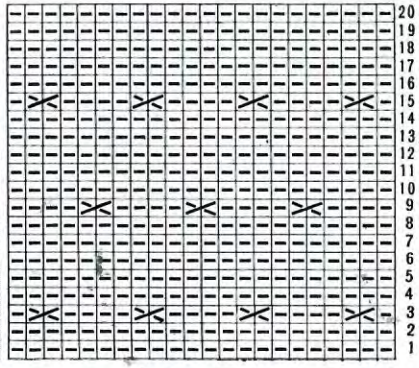
ドライブ編



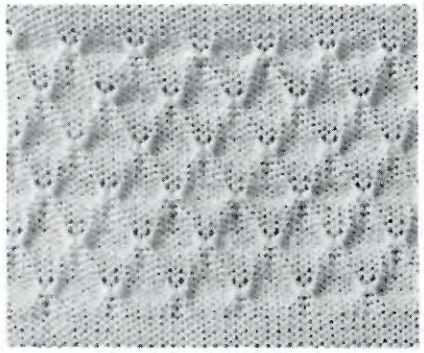


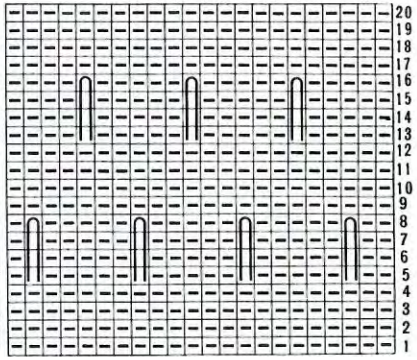
一目交叉の縄編



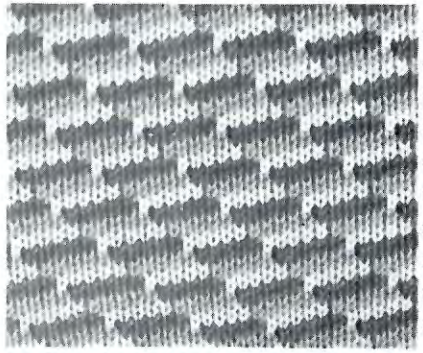


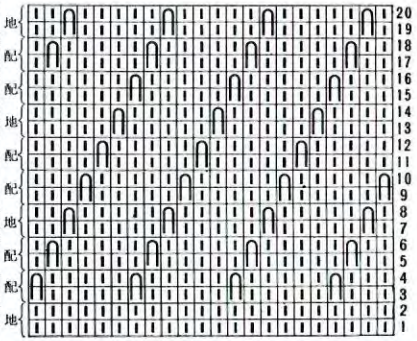
引上げ編の地模様



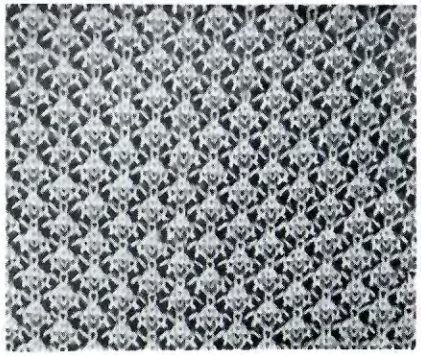


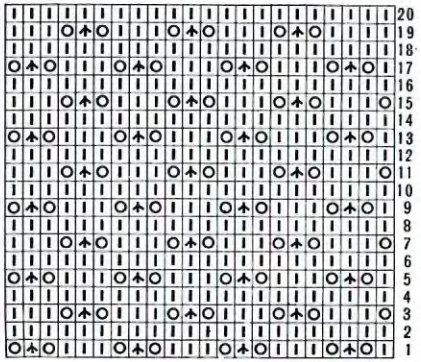
引上げ模様編



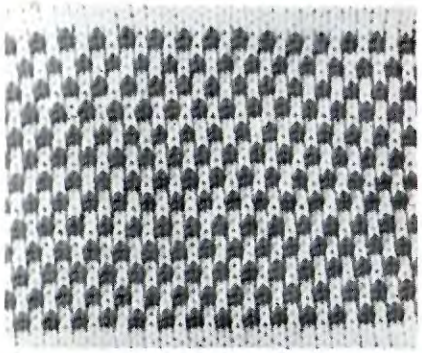


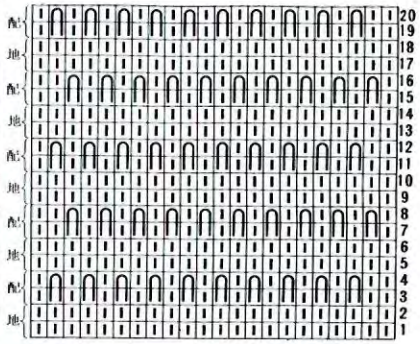
レース模様



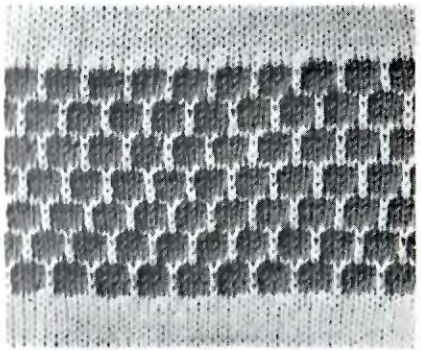


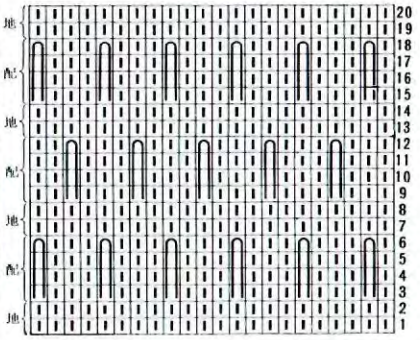
引上げ模様編



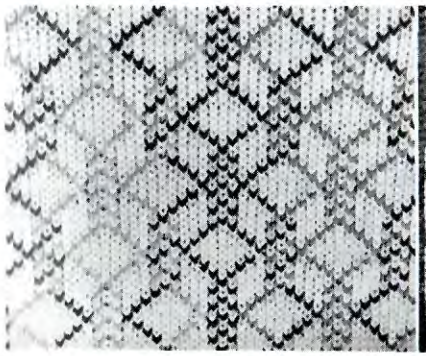


引上げ模様編



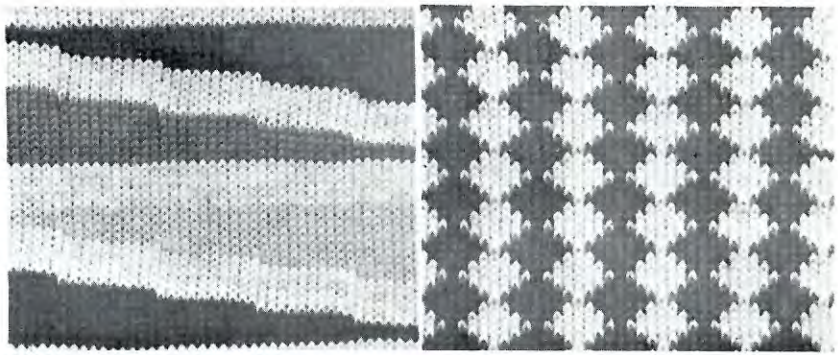


編込み刺繍



格子編

引　返　し　編　　編　込　み　模　様



◇取扱い上の注意◇

目はずれの原因	修　理　法
刷毛の位置が悪い時	メリヤス針のベラがはける様にする
糸口の位置が悪い時	高すぎは目が落ち低い時は針にさわるから適当に調節する
メリヤス針の破損の時	ベラの曲りはヤットコでなおす
毛糸が粗悪な時	混紡等の伸びの少ない毛糸は使わないようにする
ゲージの調節が悪い時	なるべく標準編目にする
アームの位置が悪い時	歯口とのすき間を0～0.5mmとする
ネジ類がゆるんでいる時	しつかり締めつける
毛糸のつぎこぶが大きい時	なるべく小さく結ぶ
円刷毛がきかない時	円刷毛をそうじする

色糸で編んだ場合円刷毛を掃除して下さい。でないと次に編む毛糸が汚れることがあります。

保　存　と　手　入

編機の故障は乱暴な使用と保存する時の不注意等が殆んどといつて差支えありません。でありますから、しばらく保存しようとする場合、天気の良い日を選び、まず汚れを全部落し毛糸屑塵を払います。塗装部分の汚れは布(又は石鹸)をしめらせて拭きとればよいと思います。

鍍金の部分はブラシ、布できれいに拭き上げて下さい。次に不具合の箇所を綿密に調べて直せるものは直し、ゆるんでいるネジ等をしめつけ調整します。

セーター、一枚一回注油

こうしておいて塗装以外の金属全部にスピンドル油、パラフイン油等の鉱物油を薄くひいて下さい。メリヤス針、シンカ針、溝板、キヤリジ裏、特にキヤリジ裏側のパイプは油をたつぷりふくませる必要があります。

こうして掃除をしましたならば、附属品機械本体共にセロフアン、ポリエチレン、パラフイン紙等で包装なさつて下さい。もし無い時は吸湿性の少ないロールのかかつた紙が結構です。ビニール、新聞紙等はよくありません。

(保　存　場　所)

湿気のない場所を出来るだけ選ぶことが大事です。

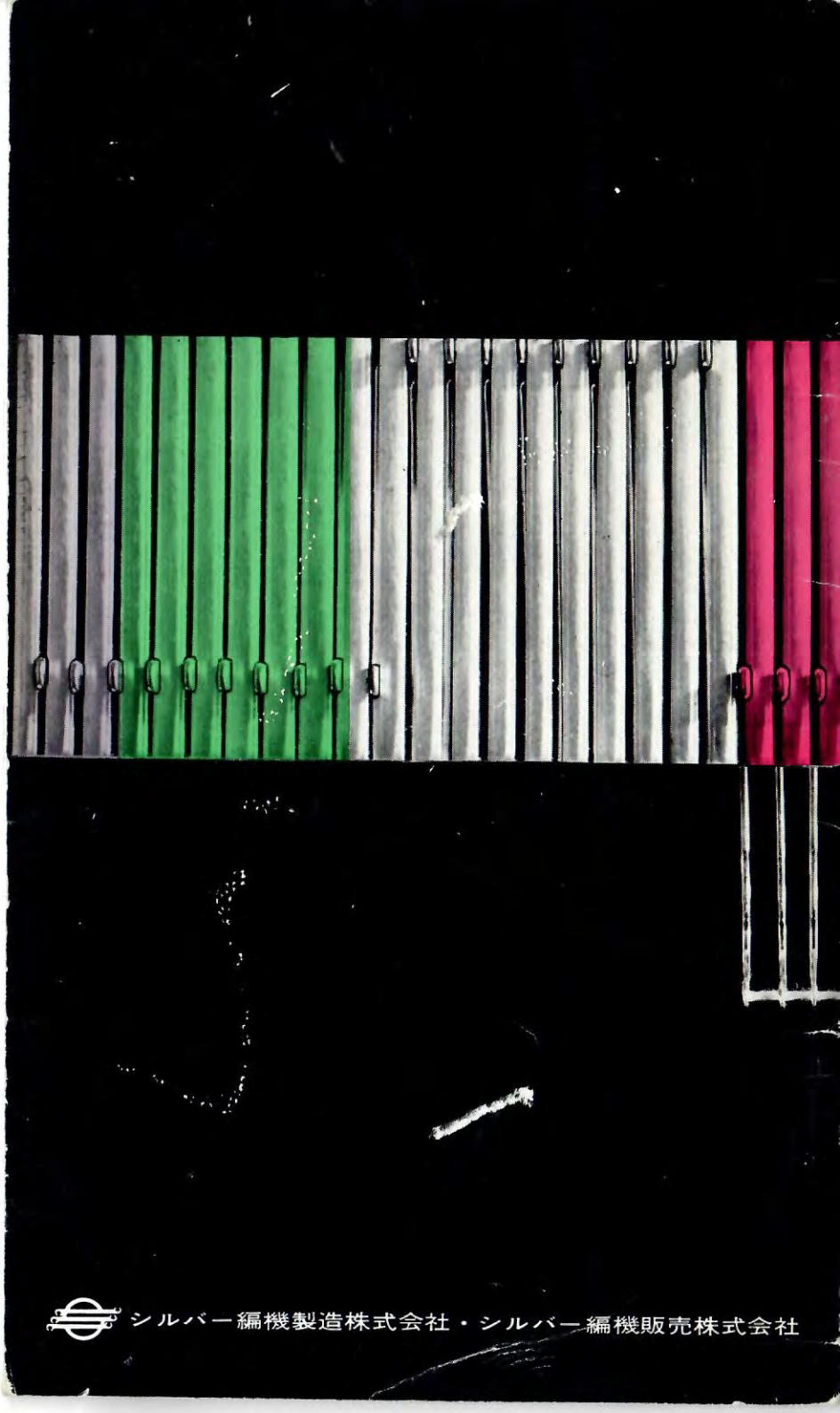
廊下の棚、押入、台所、地下は皆不適当です。一般家庭では居間の箪笥の上などが一番良い場所です。

もし、棚を利用する場合には風が直接当らない所で、機械の下に何かはさみ台でも入れて間をあけておきます。こうして保存しておいたものをとり出して使用する時は、保存の折と同様、もう一度点検し、古い油を全部拭きとり、改めて新油をさし、乾いた布で拭い、使つた毛糸で二、三十段、操作してみますと、針についている油はきれいに拭きとれます。

本機は附属品一式がケース内に格納される金属製ポータブルケースですから、保存上に極めて効果的ですが、機械を大事にする意味でさらに塵のかからぬよう袋、ボール箱等に納めて下さい。永く保存する意味では使用毎に十二分手入れをする事が一番です。

標　準　寸　法

名称 / 年令		胸囲（Bバスト）	背肩巾（出来上）	着丈（セーター）	背丈	胴囲（Wウエスト）	袖丈	袖付丈	衿肩明	衿刳下り	掌廻り	首廻り	頭囲
1才〜2才		56	22	30	21	一	23	13	8	4	14	22	48
3才〜4才		60	24	32	23	54	28	13.5	8.5	4	15	28.2	50
5才〜6才		64	25	35	25	56	32	14	9	4.5	15	29.5	52
7才〜8才		68	27	38	28	58	36	15	9.5	4.5	16	31	54
9才〜10才		72	28	40	30	60	40	16	10	5	17	32	55
11才〜12才		76	29	42	32	64	42	16.5	10.5	5	18	33.4	56
13才〜14才		78	31	45	34	66	46	17	11	5.5	19	34.6	57
婦人用	小	78	33	48	37	66	50	18	11.5	5.5	19	36	55〜60
	中	84	35	50	38	70	52	19	12	6	20	36.5	
	大	90	37	53	39	74	54	20	12.5	6.5	21	37	
男子用	小	85	38	53	42	76	54	20	13	6	21	36.5	56〜62
	中	90	39	60	44	37	55	21	13.5	6.5	22	37	
	大	94	41	62	46	80	60	22	14	7	23	39	



シルバー編機製造株式会社・シルバー編機販売株式会社